

佐賀県立白石高等学校  
令和2年度進路講演会と講演に関わるフィールドワーク

白石高校ではESDの一環として次の取り組みを行いました。

1. 令和2年度進路講演会

- ① 講師：佐賀大学理工学部流域水工学研究室 大串浩一郎先生＋同行学生1名

所属：理工学部 理工学科 都市工学部門

職名：教授 学位：博士（工学）（1992年04月）、工学修士（1986年03月）

専門分野：水工学, 自然災害科学・防災学, 科学社会学・科学技術史

所属学会：土木学会, 日本リモートセンシング学会, 国際低平地研究協会, 国際水理学協会, 在来知歴史学会

受賞歴：Best Paper Award, 9th Int. Symposium on Lowland Technology (ISLT2014) (2015年01月)

- ② 目的：未曾有の災害である令和元年佐賀豪雨に関わる最新の知見に触れ、今後の流域における防災のあり方を考えることを通じて、持続可能な地域社会の創造や生徒自身の生き方・あり方について考える機会を持つこと。
- ③ 演題：「令和元年8月佐賀豪雨災害と今後の水災害への備え」
- ④ 内容：佐賀豪雨分析、防災、今後の地域の課題
- ⑤ 形態：多目的教室での講演は三密を避けるために3年生のみが対策を講じたうえで視聴した。1,2年生は各教室の電子黒板にteamsによる配信を使って視聴した。商業科キャンパス希望生徒は、ケーブルワンで収録されたデータで視聴した。
- ⑥ その他：実施にあたっては、「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」と連携して行った。
- ⑦ 担当：普通科キャンパス 鶴田順一郎 0952-84-2131

2. 講演に関わるフィールドワーク

- ①実施日：8月18日（火）

15:00 白石高校商業科キャンパスから

商業科キャンパス生徒、普通科キャンパスへ移動

15:30 普通科キャンパスにて、ヘルスチェック、事前レクチャー実施@普通科キャンパス会議室

- ① 目的説明  
② 大串先生よりフィールドワークの事前説明  
③ 荒木先生より（佐賀大学ダイバーシティ推進室）プレゼンテーション  
④ 佐賀大学理工学部学生3名（佐賀大学理工学部都市工学科4年生 溝上哲平・野瀬光希・福山真優奈）より自己紹介

16:00 白石高校普通科キャンパス発

16:40 下西山下車

武雄川付近の車による2度の被災箇所視察

\* 献花、代表生徒 3315 田中響、3422 中島優衣

17:00 下西山発 \* トイレ休憩@武雄市役所

17:20 高橋排水機場下車

武雄河川事務所の担当者から説明

（当排水機場の役割、昨年8月豪雨災害時の当地区の状況など）

17:40 高橋排水機場発

18:00 下潟下車

鉄工所油流出現場視察

18:20 下潟発

大町駅途中下車

2号車商業科キャンパス経由

19:00 白石高校着

② 参加者 \*生徒は希望者

商業科キャンパス生徒 12名、普通科生徒 20名、普通科職員 4名

佐賀大学職員 2名、佐賀大学学生 3名 計 41名

③ その他

(1) この活動は SEAP の活動の一環として行った。

(2) SEAP は弘済会より支援を受けている。

SEAP とは…

白石高校は地域と連携することを通じて ESD に力を入れています。ESD は、Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。SEAP (Shiroishi ESD Action Plan) は今年度途中で発足しました。白石高校オリジナルの課外活動支援プログラムです。生徒の主体的選択による課外活動、校外活動等を通して自らの生き方・在り方について考える機会を持ち、社会貢献できる人材育成の一端を担うことを目指しています。

④ まとめ

三度の延期措置を経てようやく実現したフィールドワークであった。豪雨災害のポイントとなる 3 か所を訪問し、大串教授や国土交通省職員の説明を現地で聞いた。見慣れた地域でありながら、視点を変えてみることによって多くの新たな発見があった。現地で 6月10日に聞いた講演の内容を確認することによって問題をより深く理解することができた。尊い犠牲を無駄にしないために、今回分かった課題に対して生徒一人ひとりが何をすべきか考えるきっかけを持つことできた。

⑤ 写真

事前レクチャー (左から大串教授、荒木先生、溝上さん)



上西山の鉄砲水による死亡現場にて献花



高橋排水機場にて国土交通省の職員から説明を受ける様子



下瀬で航空写真を用いて説明をする大串教授



浸水の深さを説明する大串教授

